

白洲正子の眼（仮題）

「芸術新潮」創刊400号記念（1983年4月）号では、「日本の百宝」と題し、審美眼に優れた随筆家として知られる白洲正子さんが「これぞ！」と選んだ日本の宝物101点が紹介しました。選ばれた宝物は、法隆寺夢殿の救世観音や平等院鳳凰堂、志野茶碗「卯花牆」など、仏像、お寺、茶碗、絵巻物など多岐にわたります。白洲さんは、なぜこれらの宝物を選んだのでしょうか？

今回の特集では、若い頃から白洲さんを敬愛し、共に旅をしたこともある国文学者の青山恵介さんが、その謎を解き明かします。青山さんが実際に白洲さんと旅をした時の思い出やエピソードを交えながら、それぞれの宝物が生まれた背景や魅力、そして白洲さん独自のものの見方や美を見抜く力について、わかりやすい言葉で解説してくれます。

白洲正子さんの選び抜いた「日本の百宝」を通して、日本の美の奥深さに迫ります。

〈構成案〉

◆扉＋日本の至宝グラフ

◆白洲正子という人生

◆白洲正子の眼がとらえたとおきの10の美

聖林寺の十一面観音／石塔寺の三重塔／大井戸茶碗「筒井筒」／《信貴山縁起絵巻》／平等院鳳凰堂／志野茶碗「卯花牆」／《日月山水図屏風》／有志八幡講十八箇院《阿弥陀聖衆来迎図》／法隆寺の五重塔と救世観音／法華寺の十一面観音

◆武相荘案内＋白洲正子関連本ガイド

※上記は2025年6月時点のものであり、内容は変更の可能性があります。

今後の特集予定

9月号（8月25日発売）　しゃばけ

10月号（9月25日発売）占星術で見る西洋絵画

11月号（10月24日発売）東京アートウォーカー

12月号（11月25日発売）これだけは見ておきたい2026年美術展